

令和7年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立南郊中学校	校長名	大杉 博敏
児童・生徒数	389名	学級数	17学級
		教職員数	50名

1 めざす学校像

学校教育目標『生命および人権を尊重し、主体的に学び合い、たくましく生き抜く人間性豊かな生徒の育成』の達成に向けて、以下のような生徒の育成を目指す。

- ◎自分も周りの人も大切にし、お互いの事を認め合う生徒
- ◎分からない事、知らない事を放っておかず、自分から分かって・知ろうとする生徒
- ◎今の自分と向き合い、進む道や将来の事を考え行動できる生徒
- ◎社会の現状を踏まえ、自分の思いや感情を相手に伝わる方法で表現できる生徒

2 現状と課題

- ◎落ち着いて学校生活を送れている生徒は多いが、生徒を取り巻く生活課題は依然厳しく、その課題と向き合いきれず不安定な言動になったり、不登校になったりする生徒もいる。
- ◎1人ひとりの生徒が「自分がどう考えるのか」を大切にし、課題解決を通してつながる集団作りを進めることで、自分も相手も大事にする人権教育を推進する。
- ◎人権教育や生徒指導の取組を進めていくうえで、生徒・保護者・地域との信頼関係を構築し、連携・協力をしていくことが不可欠。
- ◎誰1人取り残さない「生徒主体の授業」実現に向けて、指導方法改善や授業改善が必要。
- ◎生活課題を抱えている生徒や外国につながる生徒、支援が必要な生徒などの学力保障において、学習支援のみならず家庭・生活支援のために、関係諸機関との連携が不可欠。
- ◎将来を見通した進路保障につなげるため、地域と一体となった学習支援や生活保障の仕組みの構築が必要。

3 重点課題

- ◎子どもたちの生活課題を把握し解決するための人権教育・生徒指導の取組の推進。
- ◎基礎学力を定着させ主体的に学び続けるために、分からない生徒が放っておかれない授業づくりの推進。
- ◎保護者、地域と一体となり、子どもの生活を見守り進路を保障する仕組みづくりの推進。
- ◎定刻退校週間や部活動の見直し、業務の効率化による総勤務時間の縮減推進。

4 具体的な行動計画

- ◎〈具体的課題の解決に向けた人権教育〉「自分も大切、仲間も大切」にできる生徒の育成
 - ・自らの課題や校区の人権課題解決に向けた自主的な行動につながる人権学習を日常的に推進する。
 - ・外国につながる生徒や支援の必要な生徒たちが、共に育ち高まることができる集団作りと進路保障。
 - ・仲間の思いや生き方に思いを馳せ、自分の言動を立ち止まったり振り返ったりしながら考え見直す。
- ◎〈あきらめさせない生徒指導〉「生活課題と向き合う」「自分で判断できる」生徒の育成
 - ・生徒の思いや生活背景、生活課題を把握したうえで、課題解決に向かっていくことが実感できる指導を行う。
 - ・生徒があきらめることなく、仲間とともに生活をより良くしていこうとする意識を高める。
- ◎〈生きる力としての学力保障〉「分からない・知らない」をそのままにしない生徒の育成
 - ・「南郊中における学び」の実現に向けた授業改善「分からないときは仲間に聞く」90%以上
 - ・保護者や地域と連携した家庭学習の充実。「宿題も含め、毎日家庭学習をしている」85%以上
 - ・授業及び家庭学習におけるICT機器のより効果的な活用と「生徒主体の授業改善」についての研修を深める。
- ◎〈進路保障も見据えた地域との連携〉「将来を見通して」考えられる生徒の育成
 - ・学校通信月1回以上発行、ホームページ週1回更新等、生徒や学校の活動を積極的に保護者や地域に発信。
 - ・校外でも生徒が認められる場を増やし自己肯定感・自己有用感を高める。「いいところがある」80%以上
 - ・地域と生徒がともに考え合う場を持ち、将来も含め視野を広げる。「夢や目標がある」70%以上

5 その他

- ◎〈働き方改革～総勤務時間の縮減～〉
 - ・「津市立中学校部活動指針」に基づき休養日を設け、活動時間の見直し、地域移行等の取組を進める。
 - ・定刻退校週間を月2回以上設け、うち1回はスーパー定刻退校週間とする。
 - ・退校予定時間を決め、見通しをもって仕事ができる体制、予定時間を見て声を掛け合う雰囲気づくりをする。
 - ・会議の精選を行い1.5時間以内に終了する。定例学年会の日を設定し学年会を勤務時間内に実施する。
 - ・以上の取組を通して、全職員の月時間外労働を45時間以下にする。
 - ・計画的に年次有給休暇を設定する取り組みなどにより、取得日数月平均1.2日を達成する。

